

Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名: 国際収支(2017年11月)

発表日: 2018年1月15日(月)

～経常収支は均してみれば高水準での推移～

第一生命経済研究所 経済調査部

担当 エコノミスト 齋藤 麻菜

T E L : 03-5221-4573

		原数値 経常収支 (億円)	季調値 経常収支 (億円)	貿易・サービス収支			第一次所得収支
					貿易収支	サービス収支	
2016	12月	11,143	16,719	4,167	5,568	▲ 1,402	14,172
2017	1月	952	12,518	421	1,594	▲ 1,173	13,566
	2月	28,940	23,705	6,624	8,272	▲ 1,648	19,111
	3月	29,805	17,970	1,954	3,481	▲ 1,527	17,205
	4月	19,557	18,278	3,532	2,566	965	15,956
	5月	16,776	14,246	942	2,683	▲ 1,741	14,810
	6月	9,288	15,155	1,009	1,577	▲ 569	15,972
	7月	23,680	20,816	4,237	5,278	▲ 1,041	18,459
	8月	23,941	22,767	5,858	6,334	▲ 476	19,118
	9月	22,593	18,249	3,833	4,684	▲ 851	16,481
	10月	21,764	24,415	8,237	5,808	2,429	17,899
	11月	13,473	17,005	4,164	5,074	▲ 910	14,980

○経常収支（季調値）は黒字幅が縮小

11月の経常収支(原数値)は13,473億円の黒字(コンセンサス:18,361億円の黒字、レンジ:14,312～20,100億円)とコンセンサスを大きく下回る結果となった。季節調整値では17,005億円の黒字と、前月から大幅に黒字幅が縮小した。

経常収支(季節調整値)を項目別にみると、最も大きく押し下げたのはサービス収支の赤字転化だ。ただし、サービス収支については、10月に一時的な要因から大幅な黒字となっていたものが11月は元に戻ったに過ぎず、特に問題はないだろう。また、所得収支についても、配当金など直接投資収益の受取額が大幅に減少したことから、前月比対比で減少したが、依然水準は高い。その他、輸出はアジア向け的好調や米国向けの後調など増加基調を維持したが、原油価格の上昇を主因に輸入金額の増加ペースが速まったことで、貿易収支は概ね横ばい圏での推移となっている。総じて、サービス収支の減少により、11月単月では経常収支は水準を切り下げたが、均してみれば引き続き高水準の推移が続いていると判断できる。

○直接投資収益が大幅減少

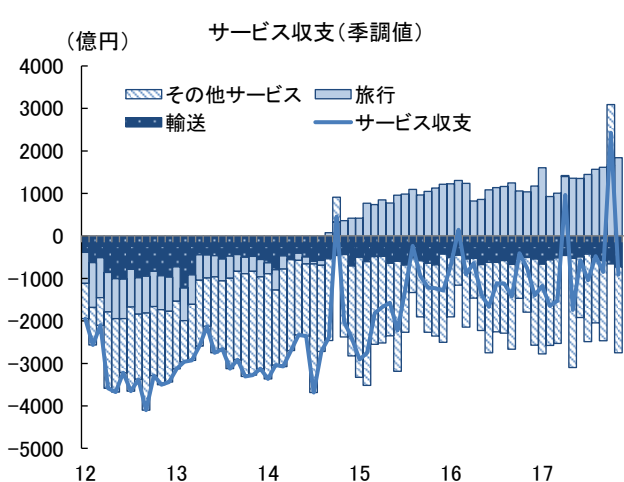
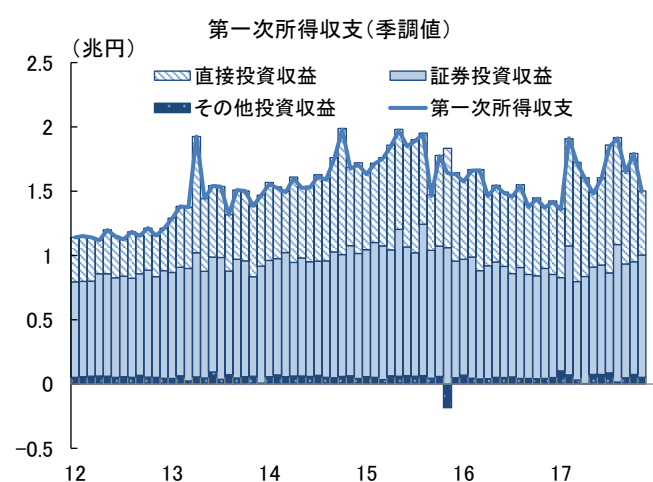
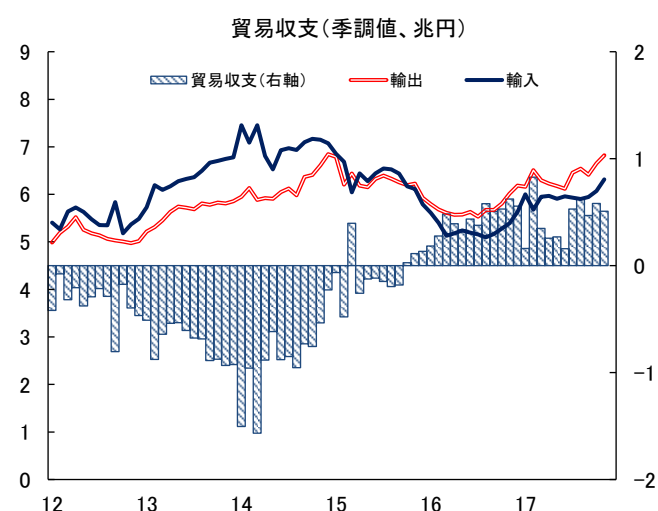
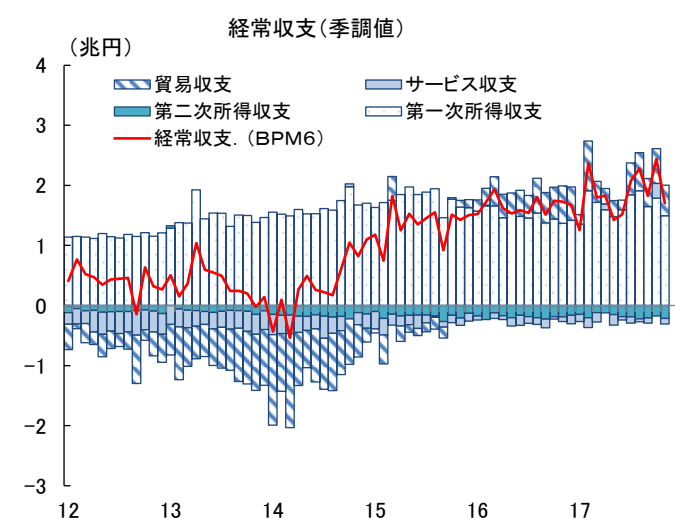
11月の貿易外収支(季節調整値)をみると、第一次所得収支は14,980億円の黒字と前月から黒字幅が大きく縮小した。内訳をみると、直接投資収益の黒字幅が縮小したことが要因となっている。直接投資収益については、このところ受取額の増加が目立っていたが、11月については8,693億円(10月:11,270億円)と16年末以来の水準まで切り下げている。世界経済の拡大が続くとみられることから、直接投資収益の増加基調は続くともみているが、受取額の減少が一時的なものかどうかは今後も注視していきたい。証券投資収益については、世界経済の好調さを背景に受取額を増加させており、黒字幅を拡大させている。

サービス収支は、▲910億円と赤字に転じ、経常収支を大きく押し下げた。内訳をみると、その他サービス

の赤字幅が大きく縮小したことが、サービス収支を押し下げている。ただし前述の通り、前月に大きく黒字に振れていたこともあり、その他サービスの振れを考えれば、基調を戻したに過ぎないだろう。旅行収支も5ヶ月連続で黒字幅を拡大するなど堅調であり、サービス収支は横ばいでの推移が続くとみられる。

○経常収支の増加基調は続く見込み

経常収支の先行きをみると、世界経済の拡大とともに、輸出は増加基調を続けるとみられる。しかし原油価格は足元でも上昇を続けており、輸出増加、内需拡大を背景に輸入数量の増加も見込まれることを考慮すると、輸入金額も増加し、貿易収支は今後黒字幅を縮小していくと考えられる。一方、所得収支については、11月は水準を切り下げる結果となったものの、世界経済の好調さを鑑みると、直接投資収益、証券投資収益ともに今後も堅調な推移を続けるというのがメインシナリオだ。経常収支は、所得収益の黒字が押し上げに寄与することで、緩やかながらも増加基調で推移することが見込まれる。



(出所)財務省「国際収支統計」